

佐渡米通信

こめへる

2025年 1 月号

発行日:2025年1月

発行：佐渡農業協同組合 担当：総務部企画課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snw.ocn.ne.jp

令和6年度 作柄検討会

令和6年産米のコシヒカリの作柄・品質に影響を及ぼした要因についてJA佐渡水稻担当者と新潟県農業普及指導センターの方も交えて説明会を行いました。生育段階と気象条件などの分析結果より、収量が低かったのは穂数に繋がる分けつの時期に低温だったことや作柄に影響する7月の日照が少なかったことなどが影響していると考えられます。特に佐渡は県内の中でも1等米比率が低い地域だったため、生産者の方へのアンケート調査を行い更なる分析を行う予定です。生産者からは高温耐性品種の導入について質問があがりましたが、県の方からは病気への懸念や十分な高温耐性能がないためまだ研究を続けている段階とのことでした。

次年度に向けた対策としては、基本となる土作り、後期栄養確保、用水管理を重点として、営農指導の中で生産者の方により合わせた個別の提案にも力を入れて参ります。



作柄検討会の様子

佐渡の米農家さんにインタビュー

真野地区金丸地域の秋山登さんにインタビューさせていただきました。秋山さんは家業の農業を継いで26年目になるそうで、コシヒカリとこしいぶきを7ha作っています。小さい頃は自分が農業をするなんて想像をしていなかったそうですが、社会に出てみて改めて実父の仕事に対する姿勢をみたときに自分も農業を継いでみたいと思ったそうです。生前実父とは特段多くの話をするともなく、農業についても口を出さずに任せてくれたそうです。いつでもそばにいてくれたので、分からないことがあれば教えてくれたと柔らかい表情でお話しして下さいました。初めて一枚の田んぼを6条植えの歩行型田植え機で植え終わったときの達成感と、植え姿がキレイだったことを今でも鮮明に覚えているそうです。

農業には多くの機械が必要となり、農業を続けていくうえで機械の経費に苦労しているそうです。お米の値段が上がっていますが、経費の上昇分を吸収できるまでには至らないそうです。秋山さんは集落の農地は集落の人達で出来るだけ守っていききたい想いがあり法人化も視野に入れているとのことでした。

JA佐渡では機械コスト低減のためにアフターフォローにも取り組んでおり、農業を続けやすい環境の整備に努めて参ります。



金丸集落に隣接する田で秋耕起を終えた秋山さん



真野地区



実父と一緒に建てた納屋と農機具を運ぶキャリアカー

おいしい佐渡米コンテスト

生産者のモチベーションと品質の向上を目的に開催しています



成分分析審査を通過した3点の食味官能審査の様子



審査を終えて感想を述べる島内の高校生

温湯消毒

春耕転

苗づくり

田植え

水管理

中干し

穂肥

稲刈り

秋耕転

ふゆみずたんぼ



facebook



instagram



JASADOTANBO